HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	西フリジア語の文法構造 : 動詞 (3)
Author(s)	清水, 誠
Citation	北海道大學文學部紀要, 47(4), 89-124
Issue Date	1999-03-29
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/33740
Type	departmental bulletin paper
File Information	47(4)_PL89-124.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北大文学部紀要 47-4 (1999)

西フリジア語の文法構造 ── 動詞 (3) ──

清 水 誠

Struktuer fan it Westerlauwersk Frysk

── tiidwurd (3) ──

(*The Annual Report on Cultural Science* 47-4 (No.97). The Faculty of Letters. Hokkaido University. Sapporo. Japan 1999. ISSN 0437-6668)

SHIMIZU Makoto (mshimizu@lit.let.hokudai.ac.jp)

§76 話法の助動詞 (it modale helptiidwurd) : 概観

(1) 語形変化

(a) 不定詞の種類

話法の助動詞には第1不定詞を伴うもの5つと te-第2不定詞または第1不定詞を伴うもの2つの7つがあり，歴史的に過去現在動詞 (§70(5)) と呼ばれる (wolle と hoege を除く)。

i) 第1不定詞を伴うもの：kinne, meie, moatte, sille, wolle

ii) te-第2不定詞または第1不定詞を伴うもの：doare, hoege (hoeve)

☞ オランダ語，ドイツ語，英語との語形的な対応は次のようになるが，意味的には相違点が多い。

フ. kinne/オ. kunnen/ド. können/エ. can (以下，この順) meie/mogen/mögen/may, moatte/moeten/müssen/must, sille/zullen/sollen/shall (should), wolle/willen/wollen/will, doare/durven/なし (中高ド. turren)/dare, hoege (hoeve)/hoeven/なし/なし

英語だけが不定形の語形がなく，人称変化しない。

(b) 人称変化

① 現在形3人称単数

他の動詞と違って現在形3人称単数の語尾 -t を欠く。ただし，doare では一定せず，hoege (hoeve) は -t を伴う。

hy {kin/mei/moat/sil/wol/doar(t)/hoecht (hoeft)}

☞ kenne「知っている」(hy ken) とwitte「同左」(hy wit) については§70 (5)(b)参照。

☞ オランダ語やドイツ語では人称変化の単数と複数で異なる母音交替（ド. Ablaut）を示すが，西フリジア語では解消された。例：フ. ik kin, wy kinne；オ. ik kan, wij kunnen；ド. ich kann, wir können

② 過去分詞

過去分詞が弱変化動詞の -d と強変化動詞の -en の両方で終わるものが多い。

hy hat...{kinnen/kind; meien/mocht; moatten; sillen/sild; wollen/wold; doaren/doarst/doard; hoegd (hoefd)}（ただし，hoegen (Hoekstra 1997：4)）

(2) 語順

(a) 不定形

不定形では動詞または動詞群を文末（右枠）に置く（ただし，第3不定詞（命令形不定詞）を除く）。動詞群では動詞の数に関係なく，支配する動詞を支配される動詞の後に一貫して置き，ドイツ語やオランダ語のような「代替不定詞」(ド. Ersatzinfinitiv) は用いない。

Frysk prate kinne「フリジア語を話せる（こと）」

Frysk prate {kinnen/kind} hawwe「フリジア語を話せた（こと）」

(b) 従属文

従属文では従属接続詞などの補文導入要素を先頭（左枠）に置き，文末（右枠）の動詞群の末尾の動詞を定形にして枠構造をつくる。

Ik wit *dat* er Frysk *prate kin*.「私は彼がフリジア語を話せることを知っている」

Ik wit *dat* er Frysk *prate* {*kinnen/kind*} *hat*.「私は彼がフリジア語を話せたことを知っている」

(c) 主文

主文では定動詞を第2位（左枠）に置き，文末（右枠）に置いた不定詞とともに枠構造をつくる。

Hy *kin* Frsyk *prate*.「彼はフリジア語を話せる」

Hy *hat* Frysk *prate* {*kinnen/kind*}.「彼はフリジア語を話せた」

te-第2不定詞を伴う doare，hoege（hoeve）の語順については§77(2)で述べる。

☞ オランダ語・ドイツ語との相違に注意。最近，オランダ語からの干渉を受けた語順が増える傾向にあるが，好ましくないとされる。

オ．Ik weet *dat* hij Fries *kan spreken*.「同上」
Ik weet *dat* hij Fries *heeft kunnen spreken*.「同上」
Hij *kan* Fries *spreken*.「同上」
Hij *heeft* Fries *kunnen spreken*.「同上」

ド．Ich weiß, *daß* er Friesisch *sprechen kann*.「同上」
Ich weiß, *daß* er Friesisch *hat sprechen können*.「同上」
Er kann Friesisch *sprechen*.「同上」
Er *hat* Friesisch *sprechen können*.「同上」

(3) 不定詞を伴わない場合

(a) 不定詞の省略

話法の助動詞の客観的用法（(4)(b)②）では何らかの形で修復可能の場合に不定詞（第1不定詞，te-第2不定詞）を省略することがある。

省略される不定詞には次の種類がある。

① 運動動詞の省略

方向や随伴などを表わす文成分を伴う場合に多い。

Moarn sille wy *der hinne*.「明日，私たちはそこに行きます」(Bosma-

Banning 1981²：43)

Ik *wol* ek *mei*.「私もいっしょに行きたい」

It famke *doarst* foar gjin noch safolle *nei it bûthûs*.「その女の子は絶対に牛小屋に行こうとしなかった」(ULI'S, B 20：20)

Jimme *hoege* hjoed net *nei skoalle*, jimme ha hjoed frij.「君たちは今日，学校に行く必要はありません。今日は休みです」(Visser 1985：639 変更)

② 運動動詞の省略：'話法の助動詞＋te-第 2 不定詞'

Ik *sil* nei hûs *te iten*.「私は家に食事に行こうと思います」(ULI'S, B 14：10)

Ik *wol te fiskjen*.「私は魚釣りに行きたい」(Bosma-Banning 1981²：55)

Men *kin te aaisykjen, te fiskjen en te silen*.「卵探しや魚釣りやヨットをやりに行くことができる」(ULI'S, A 19：19)

この構文が運動動詞の不定詞の省略であることは次の用例を参照。

Gabe *giet te aaisykjen*.「ガーベは卵探しに行く」(ULI'S, A 19：19 変更)

Do *giest* moarn net *te silen*.「あなたは明日，ヨットをやりに行くんじゃありませんよ」(ULI'S, B 20：12)

③ 一般的な行為・存在を表わす動詞の省略

Witst wol hoest mei dat apparaat *moatste*?「君はその器械をどのように扱うべきかわかりますか」(hoest←hoe'tst) (Zantema 1984：1198)

Syn learen *wol* net bot.「彼の勉強ははかどらない」(Bosma-Banning 1981²：56)

Ik fernim, jo *kinne* net.「君には無理だと私は感じる」(Boersma/Van der Woude 1980²：89)

Hoe *kin* dat?「どうしてそれが可能なのか」(ULI'S, A 20：7)

次の用法では meie，hoege (hoeve) (＋否定) をそれぞれ「好きだ」，「必要としない」という意味の他動詞として用いているとも言える。

Bern *meie* graach swietekau.「子供は甘いものが好きだ」(Bosma-Banning 1981²：144)

Do *hoechst* dyn sean aai ek *net* tink?「あなたはゆで卵もいらないわけね」(Bangma 1993²：128)

④ 一般的な行為・存在を表わす動詞を含む分離動詞で，前綴りに相当するものが残る場合

De moade *moat* men *nei* al sil 't himd ek boppe de broek.「シャツがズボンの外に出ることになっても，流行には従わざるを得ない」(Bosma-Banning 1981²：43)

Dy't der mear fan witte wol *moat* syn lesjouwer mar *oan*.「それについてもっと知りたい人は担当教師にたずねる必要があります」(ULI'S, B 18：9 変更)

Sille wy in slach *om*?「散歩に行こうか」(Bosma-Banning 1981²：21)

Dy broek *hoechst* ek al net mear *oan*.「あなたはもうそのズボンははかなくてもいいわよ」(ULI'S, C 4：17)

oandoare「敢行する，請け合う」のように分離動詞を形成するようになった例もある。

Meiïnoar *doare* famkes en jonges de striid *oan*.「たがいに女の子たちと男の子たちは競争をやろうとする」(ULI'S, B 14：16 変更)

In hûshâlding ût de stêd hat it *oandoarst* en keapje it spultsje.「都会の一家がその小さな農場を思いきって購入した」(ULI'S, B 14：13)

⑤ 完了の助動詞 ha(wwe)/wêze と受動の助動詞 wurde の省略

受動の助動詞 wurde は広く省略可能である。

Hy kin it ek net helpe, dat *moat sein*.「彼でもそれは無理だ，残念だが(＝それは言われなければならない)」(sein [wurde]← sizze「言う」)

Dat *moat* hjoed noch *regele*.「それは今日中にかたづける必要がある」(regele [wurde]← regelje「片付ける」)

Dat lân *sil ferkavele*.「その土地は分割される予定だ」(ferkavele [wurde]← ferkavelje「分割する」) (Zantema 1984：862)

完了の助動詞 ha(wwe)/wêze の省略は制限が強い。次例の 'kin…dien' は慣用句的な表現だが，'kin…naaid' は辞書の用例にあるものの，好ましくないとする話者もいる。'kin…lêzen' はかなり認容度が低い。

Dat *kin* ik hjoed noch *dien*.「それは私は今日中にやってしまうことができる」(dien [hawwe]← dwaan「する」) (Visser 1985：151 変更)

(?)Dat *kin* 'k hjoed noch *naaid*.「それは私は今日中に縫ってしまうことができる」(naaid [hawwe]← naaie「縫う」) (Visser 1985：375)

*Ik {*moat/wol*} dat boek foar snein *lêzen*.「私はその本を日曜日までに読んで {しまいたい/しまう必要がある}」(lêzen [hawwe]← lêze「読む」)

☞ オランダ語では受動の助動詞 worden は省略可能だが，完了の助動詞 hebben/zijn は省略できない。zullen には主観的用法しかないので，どちらの場合にも省略できない ((4)(b))。

オ. Hij kan het ook niet helpen, dat *moet {gezegd/gezegd worden/worden gezegd}*.「同上」(ANS 1984：558 変更)

Dat *moet* vandaag nog {*geregeld/geregeld worden/worden geregeld*}.「同上」

Dat land *zal* {**verkaveld/verkaveld worden/worden verkaveld*}.「同上」

Dat *kan* ik vandaag nog {**gedaan/gedaan hebben/hebben gedaan*}「同上」

Dat *kan* 'k vandaag nog {**genaaid/genaaid hebben/hebben genaaid*}.「同上」

Ik {*moet/wil*} dat boek voor zondag {**gelezen/gelezen hebben/hebben gelezen*}.「同上」

(b) その他の場合

不定詞を伴わない表現にはこのほかに以下の場合がある。

① 'dat-従属文' を伴う場合

おもに wolle とともに用いる (§ 77 (1)(e)①)。次例では主文と従属文の主語が同一であることに注意。

Hy *woe*, *dat* er dat skilderij kocht hie.「彼はその絵を買っておけばよ

かったと思った」(ULI'S, B 19：15)

② 前置詞句を伴う場合

'oer＋名詞句＋(net) {kinne/(wol) meie}'「…が好きだ（嫌いだ），…に耐えられる（耐えられない）」の用例が多い。

Ik *kin* net *oer* spekfet.「私はベーコンは苦手だ」(Zantema 1984：679)

De sinne dêr *mei* 'k *wol oer*.「太陽の光，それは気持ちがいいと思う」(Zan-tema 1984：679)

Ik *mei* der *net oer* dat famkes smoke.「女の子がタバコを吸うのは感心しない」(Bosma-Banning 1981²：143)

☞ 話法の助動詞とともに用いる不定詞の省略は英語を除くゲルマン語に共通する現象である（逆に，一般に不定詞句の省略は英語だけが可能である)。
フ．Ik *moat* nei skoalle {Ø/*gean*}.「私は学校に行かなければならない」
オ．Ik *moet* naar school {Ø/*gaan*}.「同上」
ド．Ich *muß* in die Schule {Ø/*gehen*}.「同上」
ス．Jag *måste* {Ø/*gå*} til skolan.「同上」
エ．I *must* {*Ø/*go*} to school.「同上」
西フリジア語では他のゲルマン語とちがって，話法の助動詞以外でも不定詞の省略が可能である（Hoekstra 1997：127 ff.)。詳細は不定詞の章で述べる。
Ik bin fan doel *om* nei skoalle {Ø/*te gean*}.「私は学校へ行くつもりです」

(4) 意味と用法

(a) 主観的用法と客観的用法

話法の助動詞には次の 2 つの用法がある。

i）主観的用法（ド．subjektiver Gebrauch，話法的用法　フ．epistemysk/wier-modaal)

ii）客観的用法（ド．objektiver Gebrauch，擬似話法的用法　フ．deontysk/sabeare-modaal)

主観的用法は蓋然性を表わし，蓋然性の程度によって話法の助動詞全体が体系づけられる（例：moatte「…にちがいない」は蓋然性が高く，kinne

「…かもしれない」は蓋然性が低い)。客観的用法は能力・可能，許可，義務・必要，意志，願望など個別的な意味に分かれる。話者の心的態度の表現としての話法の意味を明確に示すのは主観的用法であり，客観的用法は疑似的な話法の意味を示すにとどまる。

doare と hoege はもっぱら客観的用法で用いる。sille にはオランダ語の zullen（あるいはドイツ語の werden（wird；不定詞を欠くので，現在形3人称単数を付記する。以下同様）とは異なって，客観的用法と主観的用法の両方がある（§77(d)）。

主観的用法は状態を表わす不定詞や完了不定詞と用いる傾向がある。

Jantsje *koe* har hier wol *ferve ha*.「ヨンチェは髪を染めたのかもしれない」(fervje「染める」)（Hoekstra 1997：61 変更）

Dat *moat* wol in nuveren-ien *wêze*.「それは変なやつにちがいない」(Zantema 1984：626)

しかし，これには客観的用法の用例もあり，解釈に注意を要する。

Ik {*moat/wol*} dat boek foar snein *lêzen hawwe*.「私はその本を日曜日までに読んで {しまわなければならない/しまいたい}」(lêze「読む」)

Jimme *kinne* noch moai foar tolven thûs *weze*.「あなたがたは12時までにまだじゅうぶん家に戻れます」(Hoekstra 1997：129 変更)

(b) 統語現象への反映

両者の相違は以下の統語的な現象にも反映する。

① 不定形と完了形の形成

話法の助動詞は客観的用法では不定形（不定詞，分詞）として現われることができる。

De tiid sil 't leare *moatte*.「時がそれを教える必要があるだろう」(De Boer 1986：112（Ⅶ))

Lit it net by *sillen* bliuwe.「それをやろうということで終わらせないようにしなさい」(Tamminga 1987)

Do hast hjir neat *te wollen*.「君がここでほしいものは何もない」(Visser 1985：878)

したがって，次のように完了形にできる。

It *hat* sa wêze *moatten*.「それは避けられないことだった（＝しかたがない）」(Zantema 1984：626)

It *hat* net sa wêze {*meien*/*mocht*}.「それはそうあるべきではなかった」(Visser 1985：439)

一方，主観的用法ではふつう不定形にならず，完了形は話法の助動詞を支配する完了の助動詞が非現実の仮定という話法的な意味を表わす場合などに限られる。

It wer beskikber kommen fan syn boek *hie* in feestlike eare foar Klaes Dykstra wêze *moatten* — mar de werklikheid wie dus al oars.「自著の再度の完成はクラース・ディクストラにとっては慶賀の名誉になるはずだった－しかし，現実はこのように違ったものになってしまった」(Ut de Smidte: 31e jiergong nû. 2, maaie 1997, side 1)

② 不定詞の省略 ((3)(a))

第1不定詞の省略は客観的用法では可能だが，主観的用法では不自然な場合が多い。

i）客観的用法

Pyt {*kin*/*mei*/*moat*/*sil*/*wol*} nei Japan ta {*gean*/Ø}.「ピトは日本に{行くことができる/行ってもいい/行かなくてはいけない/行くつもりだ/行きたいのだ}」

ii）主観的用法

Pyt *koe* wol nei Japan ta {*gean*/*Ø}.「ピトは日本に行くかもしれない」(Hoekstra 1997：132 変更)

Mocht Pyt nei Japan ta {*gean*/*Ø}, dan gean ik ek mei.「ピトが日本に行くことがあれば，私もいっしょに行く」(ib. 132 変更)

Moast Pyt noris nei Japan ta {*gean*/*Ø}.「ピトが日本に行くはずだなんて！」(ib. 132 変更)

Pyt *sil* wol nei Japan ta {*gean*/*Ø}.「ピトはたぶん日本に行くだろう」(ib. 132 変更)

Pyt *wol* noch wolris nei Japan ta {*gean*/*Ø}.「ピトはいつか日本に行くぞと言い張っている」(ib. 132 変更)

ただし，次のような sille の慣用句的な表現では例外的に可能である。

Dat *sil* ('t) wol.「それはそうかもしれない」(Zantema 1984：862)

(オ. Dat *zal* wel.「同上」(ib. 862))

Soe it?「それは本当か」(ib. 862)

It falt wol wat ta, *soe* 't net?「それはまんざらでもないかもしれないよね」(ib. 862)

③ 不定詞句の代名詞化

客観的用法では主観的用法とちがって，不定詞句は指示代名詞 dat で置きかえられる。

"Wy moatte Frysk leare." "Ja, *dat* moatte wy."「私たちはフリジア語学ばなくてはいけない」「そうだ，そうしなくてはならない」

しかし，主観的用法では不可能である。

"Hy moat siik wêze." "*Ja, *dat* moat er."「彼は病気に違いない」「そうだ，そうにちがいない」

④ 疑似分裂文

客観的用法では主観的用法とちがって，疑似分裂文が可能である。

Wat wy moatte is Frysk leare.「私たちがやらなくてはいけないのはフリジア語を学ぶことだ」

**Wat er moat* is siik wêze.「彼がそうにちがいないのは病気であることだ」

(5) 非現実の表現

西フリジア語にはドイツ語やアイスランド語のような接続法がなく，過去形を非現実の表現に用いる (§ 74 (2)(c))。

(a) 現在（非過去）における非現実

① 過去形または 'soe…未完了第 1 不定詞'

過去形，または話法の助動詞 sille の過去形 soe と未完了第 1 不定詞で

表現する。両者の組み合わせも可能である。

i）過去形

At se it my {moarn/*juster} *frege*, dan *die* ik it.「もし彼女が {明日/昨日} 私にそれを頼めば，私はそれをするだろうに」(freegje「頼む」, dwaan「する」) (Hoekstra 1997：64 変更)

ii）soe…未完了第 1 不定詞

At se it my {moarn/*juster} *freegje soe*, dan *soe* ik it *dwaan*.「同上」(ib. 65 変更)

両者の組み合わせも可能である。

iii）過去形と 'soe…未完了第 1 不定詞'

At se it my {moarn/*juster} *frege*, dan *soe* ik it *dwaan*.「同上」(ib. 64 変更)

At se it my {moarn/*juster} *freegje soe*, dan *die* ik it.「同上」(ib. 64 変更)

これは sille を推量（主観的用法）の意味で広く用いることによるが，その過去形 soe は非現実の表現手段として確立していると言える。

② 2 種類の soe

soe は「意志・計画・予定」(客観的用法) の意味の sille の過去形としても用いるので，注意を要する。

Hja *soe* it my moarn *freegje*.「彼女は明日私にそれを頼むかもしれない」(推量) (ib. 65 変更)

Hja *soe* it my juster *freegje*.「彼女は昨日私にそれを頼むつもりだった」(意志・計画・予定) (ib. 65 変更)

他の話法の助動詞とともに用いると，意味的な共起制限のために現在 (非過去) における非現実の表現にほぼ限定される。

Hja *soe* it my moarn *freegje kinne*.「彼女は明日私にそれを頼むことができるかもしれない」(推量)

*Hja *soe* it my juster *freegje kinne*.「彼女は昨日私にそれを頼むことができるつもりだった」(意志・計画・予定)

(b) 過去における非現実

過去完了，または話法の助動詞 sille の過去形 soe と完了第 1 不定詞で表現する。両者の組み合わせも可能である。ここでも soe は非現実の表現手段として確立している。

i) 過去完了

At se it my {*moarn/juster} *frege hie*, dan *hie* ik it *dien*.「もし彼女が {明日/昨日} 私にそれを頼んでいたら，私はそれをしていただろうに」(ib. 64 変更)

ii) soe...完了第 1 不定詞

At se it my {*moarn/juster} *frege ha soe*, dan *soe* ik it *dien ha*.「同上」(ib. 64 変更)

iii) 過去形と 'soe...完了第 1 不定詞'

At se it my {*moarn/juster} *frege hie*, dan *soe* ik it *dien ha*.「同上」

At se it my {*moarn/juster} *frege ha soe*, dan *hie* ik it *dien*.「同上」

その他の用例。

As de auto stadiger *riden hie*, *soe* alles noch bêst goed *gien wêze kinne*.「もし車がもっとスピードを落としていたら，万事支障なくすんでいたのに」(ULI'S, C 12：21)

As ik dat *dwaan mochten hawwe soe*, *wie* alles noch goed *ôfrûn*.「もし私にそのことをすることが許されていたら，すべては良い結果に終わっていただろうに」(ULI'S, C 12：13)

(c) 非現実の soe 以外の話法の助動詞による過去における非現実

非現実の soe は過去における非現実の表現としては別格であり，「意志・計画・予定」の意味の sille の過去形としての soe およびその他の助動詞による過去における非現実の表現には，これとは別の次の 2 種類がある。それぞれ i)「過去完了構文」，ii)「完了不定詞構文」と呼ぶことにする。後者は用法に制限があり，用例の数も前者に比べて少なく，過去の非現実の表現としては有標であると言える。

i)「過去完了構文」：完了の助動詞の過去形…第 1 不定詞＋話法の助動詞の

過去分詞

Pyt *hie* snein einliks de tún *omhakje moatten*, mar hy hie der neat gjin sin oan hân.「ピトは本当は日曜日に庭の手入れをしなければならないはずだったが，まったくその気がなかった」(Hoekstra 1997：53変更)

ii)「完了不定詞構文」：話法の助動詞の過去形…完了第1不定詞

Pyt *moast* snein einliks de tún *omhakke ha*, mar hy hie der neat gjin sin oan hân.「同上」(ib. 54 変更)

両者には次のような違いがある。

① 過去における事実

「過去完了構文」は過去完了形と同形であり，過去における事実の表現としても用いるが，「完了不定詞構文」はこの意味では用いない。

i)「過去完了構文」：過去における事実―可

Pyt *hie* snein foar straf de tún *omhakje moatten* en dêr hie er de hiele dei mei besteld west.「ピトは罰として日曜日に庭の手入れをしなければならず，それに一日中かかりきりだった」(ib. 54 変更)

ii)「完了不定詞構文」：過去における事実―不可

*Pyt *moast* snein foar straf de tún *omhakke ha* en dêr hie er de hiele dei mei besteld west.「同上」(ib. 54 変更)

その他の用例(「過去完了構文」)。

Wa *hie* ea *tinke* {*kinnen*/*kind*} dat it nochris safier komme soe.「そこまでになるとはだれに想像できただろう」(ULI'S, B 20：18)

Ik *hie* better *witte moatten*.「私は本当はもっとよく知っているべきだった」(Bangma 1993²：20)

Wy *hiene* ús wurk graach ôf *ha* {*wollen*/*wold*}.「私たちは仕事にけりをつけたかったのだが」(ULI'S, B 18：21)

Dat *hiest* net *dwaan* {*hoegd*/*hoefd*}.「君はそれをする必要はなかったのに」(Visser 1985：283 f. 変更)

第1不定詞を伴わない用例(「過去完了構文」)。

Ik jou ta, soks *hie* al earder *moatten*.「なるほど，そのようなことは

もっと早くやっておく必要があったのですね」(Bangma 1993²：83)

It *hie* net {*hoegd*/*hoefd*}.「それは必要なかったのに」(Visser 1985：284)

② 従属文

「過去完了構文」は従属文で用いることができるが，「完了不定詞構文」は用いることができない。

i)「過去完了構文」：従属文で過去における非現実—可

Hja wit dat ik har in brief *skriuwe wollen hie*.「彼女は私が本当は彼女に手紙を書きたかったことを知っている」(Hoekstra 1997：52 変更)

ii)「完了不定詞構文」：従属文で過去における非現実—不可

*Hja wit dat ik har in brief *skreaun ha woe*.「同上」(ib. 52 変更)

(d) 非現実の soe を用いた過去における非現実との対比

① 主文と従属文での「完了不定詞構文」に相当する構文

他の話法の助動詞と違って，非現実の soe では「完了不定詞構文」に相当する構文が従属文でも許されることは(b)で示したとおりである。

Pyt *soe* foar de wyn *soarge ha*.「ピトはワインを調達するはずだったのに」(主文) (ib. 60 変更)

Hja seit dat Pyt foar de wyn *soarge ha soe*.「彼女はピトがワインを調達するはずだったのにと言っている」(従属文) (ib. 60 変更)

② 「過去完了構文」の可否

非現実の soe は(a)で述べたように非現実の表現として確立しており，この意味では過去分詞 sillen が現われる「過去完了構文」は用いず，soe が現われる「完了不定詞構文」を主文・従属文に関係なく用いる。したがって，(c)で述べたその他の助動詞による過去における非現実の表現の場合とは逆の分布が見られる。

i)「過去完了構文」

**Hie* se wol lokkich mei Jan *wêze sillen*?「彼女ははたしてヨンといっしょで幸せだったのだろうか」(ib. 80)

ii）「完了不定詞構文」

Soe se wol lokkich mei Jan *west ha*?「同上」（主文）（ib. 80）

Wa wit oft se wol lokkich mei Jan *west ha soe*.「彼女がはたしてヨンといっしょで幸せだったのかだれが知ろう」（従属文）（ib. 80）

その他の用例。

Soe hja dat wol *witten ha*?「彼女ははたしてそれを知っていたのだろうか」（ULI'S, B 14：11）

ただし，「意志・計画・予定」の意味の sille の過去形としての soe では，他の助動詞の場合と同様に「完了不定詞構文」を用いることができる。

Hy *hie* hjir ek *wêze sillen*, mar hy waard behindere.「彼はここに来るつもりだったが，邪魔がはいった」（Zantema 1984：862）

Dat *hied* er faaks wol *dwaan sillen*.「それを彼はもしかするとやるつもりだったのかもしれない」（hied ← hie）（ULI'S, C 20：14）

Jimme *hiene* dat *dwaan sillen*.「あなたがたはそれをしようとすればよかったのに」（ULI'S, C 20：12）

☞ オランダ語では過去における非現実の表現としてもっぱら「過去完了構文」を用い，「完了不定詞構文」は zullen の過去形の zou に限られる（用例は Hoekstra（1997：47））。

i）「過去完了構文」：可

オ．Hij *had* z'n koffer daar neer *kunnen zetten*.「彼はトランクをおろすことができただろうに」

Je *had* eerder *moeten komen*.「君はもっと早く来なければならなかったのに」

Jan *had* voor de wijn *zullen zorgen*.「ヤンはワインを調達するはずだったのに」

ii）「完了不定詞構文」：zou を除いて不可

オ．*Hij *kon* z'n koffer daar neer *gezet hebben*.「同上」

*Je *moest* eerder *gekomen zijn*.「同上」

Jan *zou* voor de wijn *gezorgd hebben*.「同上」

このように，zou はオランダ語でも西フリジア語と同様に非現実の表現として確立していると言える。ドイツ語の würde にも同様の事実が指摘で

きる。オランダ語のzullen（Kirsner 1969）やドイツ語のwerden（wird）の基本的な意味は，他の話法の助動詞と違って，百パーセントの現実度ではない任意の現実度を示すことにすぎず，様々な話法的なニュアンスは語用論的な要因に左右されるのであり，非現実の表現として独立させようとする傾向に合致するに至ったと考えられる。西フリジア語のsilleも同様の傾向を示すが，zullenやwerden（wird）と違って客観的用法がある点で一歩手前の発達段階にあると言える。じじつ，Hoekstra（1997：80）によれば，19世紀の西フリジア語では過去分詞sillenを用いた「過去完了構文」の用例が従属文で見られる。

Hwa wit ef hy wol lokkich mei Janke *wêze scillen hie*.「彼がはたしてヨンケといっしょで幸せだったのかだれが知ろう」（正書法は1893年の原文のまま）（Hoekstra 1997：80）

「過去完了構文」と「完了不定詞構文」を比較すると，オランダ語ではzouを除いてもっぱら前者を用いる。ドイツ語も同様である（Er {*hätte* es *tun können*/**könnte* es *getan haben*}.「彼はそれをやることができただろうに」）。これにたいして，西フリジア語では上述のように後者も可能だが，従属文で後者が許されないことや用例の頻度から前者が優勢である。一方，英語では後者しか許されず（He *could have done* it.），中高ドイツ語でも同様だった（si *wolden* Volkeren ze tôde *erslagen hân*.「彼女はフォルケルを殺してやりたいところだった」（Paul/Wiel/Grosse 1989[23]：296））。これは英語や中高ドイツ語では話法の助動詞が不定形とくに過去分詞を欠いていることによる。ドイツ語はその後，話法の助動詞が過去分詞を発達させたため，「完了不定詞構文」から「過去完了構文」に移行し，さらに非現実のwürdeを用いた構文を発達させつつある。オランダ語も同様の移行を経たが，西フリジア語は「完了不定詞構文」から「過去完了構文」への移行の途上にあると考えられる。同様の変化は北ゲルマン語にも観察される。

§77　話法の助動詞の種類と用例

(1)　第1不定詞を伴うもの

(a)　kinne［kĺnə］

	現在形				過去形	
ik	kin	［kIn］		ik	koe	［kuə］
(do)	kinst	［kIⁿst，(keːⁿst)］		(do)	koest	［kuəst］
hy	kin	［kIn］		hy	koe	［kuə］

hja　kinne [kĺnə]　　hja　koene(n) [kűənə(n)]
過去分詞　kinnen [kĺnən], kind [kInt]

① 能力・可能：「…できる」

i）第1不定詞を伴う用例

主語の能力や状況に応じた可能性を表わす。

Ik *kin* jo net ferstean.「私はあなたの言っていることが聞こえない」(Bosma-Banning 198[12]：13)

Do *koest* it net fine.「君はそれを見つけられなかった」(ULI'S, B 14：21)

Wy *kinne* Fryslân yn sân lânskippen ferdiele.「私たちはフリースラントを7つの地形に分けることができる」(ULI'S, C 9：10)

ii）第1不定詞を伴わない用例

Faaks *kin* it noch krekt.「もしかしたらそれはまだ可能かもしれない」(ULI'S, B 19：14)

Korreksje fan eigen wurk *kin* net.「自分の作品の修正は無理だ」(ULI'S, A 16：8)

Wat tinkt jo dokter, út en troch in siggarke *kin* dochs gjin kwea?「どう思いますか，先生，たまにタバコをやるくらいは悪くないでしょう」(Bangma 1993[2]：61)

De krante *kinne* jo net sûnder, gjin dei.「新聞は一日もなしではいられない」(ULI'S, C 15：10)

Ut Ljouwert wei *kin* men *nei Harns, nei Grins, nei Swolle en nei Starum*.「リャウエト（オ．Leeuwarden レーワルデン）からはハーンス（オ．Harlingen ハルリンゲン），フローニンゲン（オ．Groningen），ズヴォレ（オ．Zwolle），そして，スタールム（オ．Stavoren スタヴォーレン）に行くことができる」(ULI'S, C 20：9)

☞ 'oer＋名詞句＋(net) kinne'「…が好きだ（嫌いだ），…に耐えられる（耐えられない）」については§ 76 (3)(b)②参照。

② 依頼（疑問文2人称主語）：「…してくれませんか」，申し出（疑問文1人称主語）：「…しましょうか」

①と関連するが，能力そのものをたずねるのではなく，状況に応じた可能性を問うものである。

Kinst my wol efkes helpe?「ちょっと手を貸してくれないか」（依頼）（ULI'S, A 16：8）

Moarn mefrou, *kin* ik jo ek helpe?「おはようございます，奥様。何にいたしましょうか（店などで）」（申し出）（ULI'S, B 3：7）

☞ (e)② wolle も依頼の意味に用い，(d)① sille も申し出の意味に用いる。

過去形 koe を使えば，さらに婉曲な表現になる。

Koest dy net better stilhâlde?「黙ったほうがいいんじゃないの」（依頼・婉曲）（Bosma-Banning 1981²：54）

③ 推量：「…かもしれない」

It *kin* tige spannend *wêze*.「それはとてもスリルがあるかもしれない」（ULI'S, A 11：5）

De sinne *kin* mar skine.「日が照ることもあろう」（ULI'S, A 9：7）

(b) meie [máiə, méiə]

	現在形			過去形	
ik	mei	[mai, mɛi]	ik	mocht	[moxt]
(do)	meist	[maist, mɛist]	(do)	mochtst	[moxst, mokst]
hy	mei	[mai, mɛi]	hy	mocht	[moxt]
hja	meie	[máiə, méiə]	hja	mochten	[móxtən]

過去分詞 mocht [moxt], meien [máiən, méiən]

① 許可：「…してもいい」

i）第1不定詞を伴う用例

As jo der net út komme, *meie* jo in ensyklopedy brûke.「解決できない場合には百科事典を使ってもかまいません」（ULI'S, C 17：9 変更）

Dy bern hiene allegear rûzje om wa't yn dat boatsje farre *mocht*.「その子供たちはだれがそのボートに乗ってもいいかをめぐって皆でけんかをした」(ULI'S, A 14：15)

Mei ik hjir wol sitten gean?「ここにすわってもいいですか」(ULI'S, B 18：21)

ii) 第1不定詞を伴わない用例

Skriuw no yn likernôch 10 sinnen de wichtichste punten ût it ferhaaltsje op. It *mei* yn it Hollânsk.「その話の中から10ほどの文でもっとも重要な点を書き出しなさい。オランダ語でもかまいません」

② 禁止（否定文）:「…してはいけない」

Wy *meie* de enerzjy *net* fergrieme.「私たちはエネルギーを浪費してはならない」(ULI'S, C 20：14)

Hy *mei net* let thúskomme.「彼は遅く帰宅していはいけない」(Bosma-Banning 1981²：143)

☞ 否定文の moatte も同様の意味で用いる ((c)②)。

③ 好み（肯定文）:「…するのが好きだ」

副詞 graach [gra:x]「好んで」, wol [vol]「同左」を伴うことが多い。

i) 第1不定詞を伴う用例

Hy *mei* der graach mei nifelje.「彼はその細かい仕事をするのが好きだ」(ULI'S, A 19：7)

Reedride *mochtst* ek sa *graach* dwaan.「スケートも君は大好きだったね」(ULI'S, A 19：7)

Earrebarren en froulju *meie graach* heech nestelje.「コウノトリと女は高い所に巣を作りたがる（＝目立ちたがる。ことわざ）」(Beintema 1990：32)

ii) '名詞句＋lije [lɛ́iə] meie'「…を好む」

Ik *mei* dat *wol lije*.「私はそれが好きだ」(Zantema 1984：604)

☞ ドイツ語の mögen はこの意味で不定詞とともに用いる場合は，(gerne/gut) leiden mögen「…を好む」を除いてほとんど否定文に限られることに

注意。

iii) 第1不定詞を伴わない用例

Ik *mei* ek *graach* wat swiet yn tee en kofje.「私はコーヒーと紅茶には甘いものを入れるのが好きだ」(ULI'S, C 3：7変更)

Ik *mei* sels *wol graach* in whisky.「私自身はウイスキーも好きなの」(Bangma 1993²：9)

Ik *mei* ek *graach* mei in oar fuort.「私はほかの人とでかけるのも好きだ」(Bosma-Banning 1991²：45)

☞ 'oer＋名詞句＋(wol)(net) meie'「…が好きだ(嫌いだ)，…に耐えられる(耐えられない)」については§76(3)(b)②参照。

④ 好み(否定文)：「…するのが好きではない」

i) 第1不定詞を伴う用例

Ik *mocht* dy fint foar myn eagen *net* sjen.「私はそいつの顔が見たくなかった」(Bosma-Banning 1981²：143)

In protte minsken *meie* hjir *net* wenje.「ここには住みたくないと思っている人が多い」(Bangma 1993²：80)

ii) '名詞句＋net lije meie'「…を好まない」

Ik *mei* dy trui *net lije*.「私はそのセーターは好みではない」(ULI'S, C 4：5)

iii) 第1不定詞を伴わない用例

Ik *mei gjin* mûzen.「私はネズミは嫌いだ」(ULI'S, A 17：25)

⑤ 可能：「…することができる」

Hy hope dat er noch in skoftsje libjen bliuwe *mocht*.「彼はもう少しの間生きていられることを望んだ」(ULI'S, B 20：10)

⑥ 必然・必要：「…するべきだ，…するのがふさわしい」

Do *meist* wol avesearje.「君は急がなくてはいけない」(Bosma-Banning 1981²：143変更)

Do *meist* dy wat skamje.「君は少し恥を知るべきだ」(Zantema 1984：604，Visser 1985：439)

⑦ 推量：「…だろう」

As wy alles dwaan moasten, wat wy dwaan soene, dan *mocht* ús libben wol trijeris sa lang duorje.「もし私たちがしようと思うことをすべてしなければならないとしたら，私たちの人生は3倍も長くなるだろう」(Beintema 1990：30)

⑧ 祈願：「…であれ」

Mei de Heare jo seinigje!「主が汝を祝福し給わんことを」(Visser 1985：439)

Och, *mocht* ik Janke in tút jaan.「ああ，ヨンケにキスができたらなあ」(Hoekstra 1997：61)

次の用例では 'ik winskje [vé:ⁿskjə]...'「私は望む」のような表現が言外に意図されていると考えられる。

Dat Heechwert noch lang libje *mei*!「へーヘヴェト（村の名）が長く栄えますように」(ULI'S, A 15：8 変更)

(c) moatte [m(w)átə]

	現在形			過去形	
ik	moat	[m(w)at]	ik	moast	[m(w)ast]
(do)	moatst	[m(w)ast]	(do)	moast	[m(w)ast]
hy	moat	[m(w)at]	hy	moast	[m(w)ast]
hja	moatte	[m(w)átə]	hja	moasten	[m(w)ástən]

過去分詞 moatten [m(w)átən]

① 義務・強制・必要・必然：「…しなければならない，…するべきだ」

i）第1不定詞とともに

Neffens guon soe it iepenbier ferfier fergees wêze *moatte*.「一部の人々によれば公共交通は無料であるべきだという」(ULI'S, C 18：17)

Wy *moasten* tige laitsje, doe't er him hieltyd fersinde.「彼が間違いをしてばかりいるのを見て，私たちは大笑いせずにはいられなかった」

(ULI'S, B 13：18)

Hy *moast* it ris weagje doare!「彼はそれをちょっとやってみようとしないといけないのに」(Zantema 1984：182)

ii）第1不定詞を伴わずに

Oh, blikje, ik *moat* noadich nei skoalle.「あ，大変だ，もう学校に行かなくちゃ」(ULI'S, C 3：8)

Healwei achten *moatte* de lytse bern op bêd.「小さな子供たちは7時半に寝なくてはいけない」(Bosma-Banning 1981²：81)

② 禁止（否定文）：「…してはいけない」

意味的に moatte を否定していない（第1不定詞だけを否定している）：「[…シナイ]（=[…スル][ノデハナイ]）必要ガアル」

It petear *moat net* langer as fiif minuten duorje.「話は5分以上続いてはいけません」(ULI'S, C 12：12)

Jim *moatte net* sa bargje hear, oars wurdt it hiele kleed smoarch.「ねえ，あなたたちそんなに騒いではいけませんよ。そうでないと服がみんな汚れてしまいますからね」(ULI'S, B 11：18)

☞ 否定文の(b)② meie も同様の意味で用いる。

③ 不必要（否定文）：「…する必要はない」

意味的に moatte を否定している：「[[…スル]必要ガアル]トイウコトハナイ」

Men *moat net* alles sizze, wat men wit, mar wol alles witte, wat men seit.「知っていることはすべて言う必要はないが，言うことはすべて知っていなくてはならない（ことわざ）」(Beintema 1990：10)

☞ 否定文の(2)(c) hoege (hoeve) も同様の意味で用いる。

④ 強い推定：「…にちがいない」

It *moast* der sa smoarch yn 'e hûs wêze, ornearren de minsken.「家の中はさぞ不潔だろうと人々は決めつけた」(Bosma-Banning 1981²：89 変更)

Der rinne twa famkes mei in tas yn 'e hân. Dy *moatte* grif in

boadskip dwaan.「女の子がふたり手さげをもって歩いている。きっと買い物をするにちがいない」(ULI'S, A 11：8)

(d) sille [sĺlə]

	現在形			過去形	
ik	sil	[sIl]	ik	soe	[suə]
(do)	silst	[sIst]	(do)	soest	[suəst]
hy	sil	[sIl]	hy	soe	[suə]
hja	sille	[sĺlə]	hja	soene(n)	[sûənə(n)]

過去分詞 sillen [sĺlən], sild [sIlt]

sille には意志・計画・予定の意味（客観的用法）と推量の意味（主観的用法）がある。未来の意味は二次的であり，未来の助動詞とはみなさない。

① 意志・計画・予定：「…するつもりだ，…する予定だ」

勧誘・申し出（ｉ）や命令・要求（ii）の意味を表わすこともある。これは主語の人称や状況に応じた言語使用上の要因による。

ｉ）１人称主語

'k *Sil* him efkes út 'e bus helje.「私は彼をバスの中から連れてきましょう」(ULI'S, B 15：7 変更)

Ik *sil* moarn in hûs keapje.「明日，私は家を買うつもりだ」(ULI'S, B 14：21)

次例では sille が時を表わす条件節で現れていることに注意。

Dat fanke sil altyd fuort as wy ite *sille*.「あの子ったら，私たちが食事をしようというときになると，いつもいなくなるんだから」(Bosma-Banning 1981²：53)

１人称複数主語でおもに疑問文において勧誘「…しましょうか」の意味を表わすことがある。

Sille wy dan no mar oan tafel gean?「それではまあ，食卓につきましょうか」(ULI'S, A 3：10)

Sille wy sitten gean?「すわりましょうか」(Bosma-Banning 1981²：56)
1人称主語でおもに疑問文において申し出「…しましょうか」の意味を表わすことがある。
Sil 'k noch gau wat oars bestelle?「さっそく何かまたほかのものを注文しましょうか」(Bangma 1993²：12)
Sil ik om kertier oer twaën komme?「2時15分に来ましょうか」(Bangma 1993²：22)
☞ (e)② wolle も勧誘の意味を表わし，(a)② kinne も申し出の意味を表わす。

ii) 2人称主語
Sille jimme wier nije wike al ferhúzje?「あなたがたは本当に来週もう引っ越してしまうのですか」(ULI'S, B 13：19)
命令・要求「…しなさい，…するのですよ」の意味を表わすにことがある。
Silst hjir komme.「こっちにいらっしゃいよ」(Zantema 1984：862)
☞ この場合を除いて sille や過去形 soe 自体が命令・要求を表わすことはなく，この意味では (c)moatte を用いる。ドイツ語の sollen，sollte や英語の should との相違に注意。

iii) 3人称主語
Us Jan *sil* nije wike trouwe.「うちのヨンは来週，結婚します」(ULI'S, C 7：30)
God segene Noach en sei "noait mear *sil* in sûndfloed alles ferwoestje".「神はノアを祝福して言われた。『二度と洪水がすべてのものを滅ぼすことはないであろう』」(De Arke fan Noach)
次例では sille が時を表わす条件節で現れていることに注意。
Takom wike komt der mear nijs oer, as de stichting It Fryske Boek har plannen bekend meitsje *sil*.「来週，フリジア語書籍協会が計画を発表すれば，それについてもっと新しい知らせが出る」(ULIS, B 16：11 変更)

② ①の意味で第1不定詞を伴わない用例

Do *silst* nije wike nei it Amelân.「君は来週，アーメローン島（オ．Ameland アーメラント島）に行く予定だ」(ULI'S, B 14：10)

Wat *silst*?「君は何をするつもりなのか」(Zantema 1984：862)

Hy *sil* te fiskjen.「彼は魚釣りに行くつもりだ」(ULI'S, B 15：22)

Dat haw ik no al jierren *sillen*.「それを私はもう何年もやろうと思っていた」(Hoekstra 1997：61)

③ 推量：「…だろう」

Hy *sil* syn wurk dochs dwaan moatte.「彼はやはり仕事をせざるを得ないだろう」(ULI'S, B 18：19)

Wy *sille* net lang bliuwe kinne.「私たちは長く滞在することはできないでしょう」(ULI'S, B 18：19)

Sa'n gedicht *sil* nei alle gedachten net yn in ferdividaasjeblêd opnommen wurde.「そんな詩はどう考えても娯楽雑誌に掲載されることはないだろう」(ULI'S, B 20：20 変更)

Wat *sil* it betsjutte?「それはどういう意味なのだろう」(Bosma-Banning 1981²：5)

④ 完了第1不定詞を伴った推量

未来の出来事と過去の出来事をともに示す。したがって，「未来完了形」という名称は適切ではない。

i）未来の出来事にたいする推量

As de bern op skoalle komme *sille* de koeken *folwoeksen wêze*.「子供たちが学校へ来るときには，ケーキの木（koekebeam）の実は十分大きくなっているだろう」(Bosma-Banning 1982²：133)

ii）過去の出来事にたいする推量

Hoe let *sil* dat *west hawwe*?「それはいつのことだったろう」(ULI'S, A 20：7)

Yn dit ferhaaltsje *sille* jo ek in tal nije wurden *tsjinkommen wêze*,「この物語の中であなたは一連の新語に出会ったことでしょう」(ULI'S, C

4：10 変更)

It *sil* jo wolris bliken *dien ha* dat wurden yn 't Frysk net yn ien kear oersetten wurde kinne yn it Hollânsk.「フリジア語の単語がそのまますぐにオランダ語に訳せるわけではないということが明らかになったでしょう」(ULI'S, B 12：11 変更)

☞ sille には客観的用法と主観的用法があるが，オランダ語の zullen はふつう zullen にアクセントを置く「…しなければならない」という意味を除いて，もっぱら主観的用法で用いる。たとえば，不定詞の省略は sille では意志・計画・予定の意味で可能だが，zullen では不可能である（「…しなければならない」という意味では可能）(以上 Hoekstra 1997：60 ff.)。

フ．Pyt *sil* nei Grins ta.「ピトはフローニンゲンに行くつもりだ」(Hoekstra 1997：132 変更)

オ．*Piet *zal* naar Groningen.「ピトはフローニンゲンに行くだろう」(ib. 132)

Piet *ZAL* naar Groningen.「ピトはフローニンゲンにいかなければならない」(ZAL はアクセントをもつ) (ib. 132)

Tamminga (1987) はオランダ語の zullen に比べて西フリジア語の sille は用法が広いと述べている。これは上記の用法の差によると考えられる。たとえば，オランダ語では近接未来の表現に zullen のかわりに 'gaan＋不定詞' が多用されるが，西フリジア語では '第 2 不定詞＋gean' とは言わず，sille を（天候動詞では wolle も）用いる。近接未来は漠然とした推量ではなく，実現性の高い出来事を表わすので，オランダ語の zullen はこれに適さず，西フリジア語の sille はこれに適するためと考えられる。

フ．Hy {*sil trouwe/*giet trouwen*}.「彼は（もうすぐ）結婚する」

It {{*sil/wol*} *reine/*giet reinen*}.「雨が降りそうだ」

オ．Hij *gaat trouwen*.「同上」

Het *gaat regenen*.「同上」

§ 76 (4)(b)で述べた客観的用法でのみ可能なその他の現象がオランダ語の zullen では不可能であることも参照。

ドイツ語の werden (wird) も未来の助動詞ではなく，話法の助動詞とみなせるが，やはり主観的用法しかない。

⑤ soe の用法

sille の過去形の用法のほかに別の用法がある。詳細は§ 76 (5)参照。

i）過去における意志・目的・予定（①の過去形）

Hja wist net wat hja keapje *soe*.「彼女は何を買おうかわからなかった」(Bosma-Banning 1981²：14)

Hja wachte op it stuit dat har Heit sizze *soe*: "Is ús Machteld der net?".「彼女は父親が『マハテルドのやつはいないのか』と言う時を待った」(Bosma-Banning 1981²：53 変更)

ii）推測・疑念・非現実の仮定

Sûnder hobbys *soe* it libben earm wêze.「趣味なしでは人生はあじけないものだろう」(ULI'S, A 19：19)

Sels yn de medyske wrâld, dêr't men soks dochs wol it alderlêste ferwachtsje *soe*, komt it foar.「まさかそのようなことが起こるとは思えない医学の世界でも，それは起こる」(ULI'S, C 11：7)

Soe it noch lang snije?「まだずっと雪が降り続くのだろうか」(ULI'S, A 9：7)

Soe er noch komme?「彼はいったい来るのだろうか」(ULI'S, C 18：24)

Soe it gryp wêze?「風邪なのかな」(ULI'S, A 11：6)

iii）婉曲・丁寧・遠慮

'soe…wolle' の形式で用いることが多い ((e)⑦)。

Soest foar my twa bôlen meinimme *wolle*?「お願いだから白パンを2つもっていってくれないかしら？」(ULI'S, B 18：19)

Ik *soe* gjin fêste relaasje mear ha *wolle* leau 'k.「ぼくはどうも身を固める気はもうしないな」(Bangma 1993²：10)

(e) wolle [volə]

	現在形			過去形	
ik	wol	[vol]	ik	woe	[vuə]
(do)	wolst	[vost]	(do)	woest	[vuəst]
hy	wol	[vol]	hy	woe	[vuə]

hja wolle [vólə] hja woene(n) [vúənə(n)]
過去分詞 wollen [vólən], wold [volt]

① 願望・欲求：「…したい」

i) 第1不定詞を伴う用例

Ik *wol* graach in bewiis hawwe.「証明書をいただきたいのですが」(Bosma-Banning 1981²：13)

Dat *wol* ik út noch yn net lije.「それは絶対にいやです」(ULI'S, B 19：14)

次の表現に注意：ha wolle「…を要求・忠告する，どうやら…らしい」

Ik *wol hawwe*, do silst derhinne gean.「君にはぜひそこへ行ってもらいたい」(Zantema 1984：1204)

De lju *wolle ha* dat er net earlik is.「彼は誠実ではないというううわさだ」(Bosma-Banning 1981²：140)

ii) 第1不定詞を伴わない用例

Wa't *wol*, dy kin.「やる気がある者はできる」(Zantema 1984：1204)

Wêr *wolst* hinne?「どこへ行きたいの」(Bosma-Banning 1981²：21)

Wolst in slokje Frida?「一杯やるかい，フリーダ」(ULI'S, A 16：8)

iii) dat-従属文を伴う用例 (§ 76 (3)(b)①)

主文と従属文の主語が同一の場合があることに注意。

Ik *woe* wol *dat* ik it mar hân hie.「それをもっていればよかったのになあ」(Zantema 1984：408)

It ferhaal *wol* (hawwe), *dat* hjir ien fermoarde is.「ここで殺人があったという話だ」((i) ha wolle 参照) (Zantema 1984：1204)

② 依頼 (疑問文2人称主語)：「…してくれませんか」

①と関連するが，願望・欲求そのものをたずねるのではなく，状況に応じた意志を問うものである。

i) 依頼

Wol ien fan jim eefkes de bûter en de tsiis út 'e koelkast helje?「あ

なたがたのなかでだれかバターとチーズを冷蔵庫から取ってきてくれない」(ULI'S, A 3：10)

Wolle jo dit foar my fertale?「これを私のために訳してくれませんか」(Bosma-Banning 1981²：13)

次の表現に注意。

ast wolste「どうぞ，どうか，よろしければ」，as jo wolle「同左」

ii）勧誘（1人称主語）：「…しましょう」

Wolle wy de hannen gear dwaan?「手を合わせて｛祈り/感謝し｝ましょうか」(Zantema 1984：1204)

☞ (a)② kinne も依頼の意味に用い，(d)① sille も勧誘の意味に用いる。

③ 強い傾向，要求・必然

Boppedat *wolle* de trapers net sa bêst draaie.「おまけにペダルがどうしてもうまく回らないんです」(ULI'S, A 18：10)

It fjoer *woe* de kneppel net barne.「棒には火がつきそうになかった」(ULI'S, B 7：16)

De moade *wol* it sa hawwe.「流行でどうしてもそうなるのです」(Visser 1985：878)

Dizze kursus *wol* jo ek leare hoe't jo it Frysk skriuwe moatte.「このコースはどのようにフリジア語を綴らなければいけないかを教えようとするものでもあります」(ULI'S, C 3：15)

As 't *wol*, komme wy hjoed noch klear.「必要ならば，私たちは今日，間に合わせます」(Visser 1985：878)

Hy strykt oer it wang en oer it kin, *dat wol sizze*, oer it burd.「彼は頬とあご，すなわち，ひげを撫でる」(dat wol sizze「すなわち」) (ULI'S, A 16：8)

④ 天候などの開始

De loft is berûn. Miskien *wol* it wol reine.「空が曇っている。もしかしたらもうすぐ雨が降るかもしれない」(ULI'S, A 9：7)

As it frieze *wol*, leit der iis yn 'e fearten. As it snije *wol*, boartsje de

bern yn 'e snie.「寒くなれば水路に氷が張り，雪が降れば子供たちが雪遊びをする」(ULI'S, A 9：18)

☞ (e) sille も同様の意味で用いる。

It {*sil*/*wol*} frieze, leau 'k.「寒くなるだろうと思う」(ULI'S, B 15：21)

⑤ 主張

Hy *wol* noch wolris dronken wêze.「彼はちょっと酔っていただけだと称している」(Hoekstra 1997：61)

⑥ woe の用法

過去形 woe を使えば，願望・欲求・依頼などの意味に婉曲・丁寧・遠慮の意味が加わる。

Eins *woe* 'k wol wat feestlikers drinke.「本当はもっと派手なものを飲みたいんだけど」(Bangma 1993²：7)

Ik *woe* freegje oft jo ferstân fan hynders hawwe.「馬についてご存じかお聞きしたいのですが」(ULI'S, B 11：20)

Ja, dat wit ik wol, mar ik *woe* in dei te winkeljen.「ええ，それはわかってるけど，いつか一日，買い物に行きたいのよ」(ULI'S, A 4：8)

Woene jo al bestelle?「ご注文はもうお決まりですか」(Bangma 1993²：7)

次例では主文と従属文の主語が同一であることに注意。

Ik *woe* dat ik net altyd salang oer de dingen neitocht.「いつもあんまり物事を考え過ぎないほうがいいのになと思うよ」(Bangma 1993²：8)

⑦ soe…wolle の用法

⑥に類似し，頻繁に用いる ((d)⑤)。

Soenen jo de doar ticht dwaan *wolle*?「すみませんが，窓を閉めていただけませんか」(Tiersma 1985：109)

Ik *soe* wol mei *wolle*, mar ja, ik ha krekt in oare ôfspraak makke.「ご一緒したいのですが，あいにく，ちょうどほかの約束がはいりまして」(Boersma/Van der Woude 1980²：88)

☞ エ．would like to…，ド．möchten…にあたる。

soe が推測・疑念を意味することもある ((d)⑤)。主語が 3 人称の場合に多い。

Wêrom *soe* se dy net sjen *wolle* dan?「じゃあ，どうして彼女はあなたと顔を合わせたくないのかしら」(Bangma 1993²：11)

(2) te-第 2 不定詞または第 1 不定詞を伴うもの

(a) te-第 2 不定詞と第 1 不定詞の使い分け

doare と hoege (hoeve) がこれにあたり，使い分けは次のようになる。

① te-第 2 不定詞だけを伴う場合

doare/hoege (hoeve) が文末 (右枠) になく，不定詞に隣接しない場合。ただし，少数の話者は doare を第 1 不定詞とともに用いる。

Hja *doar* dat net {*te dwaan*/(稀) *dwaan*}.「彼女はそれをあえてすることはない」(Hoekstra 1997：4 変更)

Jimme *hoege* ús net {*te folgjen*/**folgje*}.「君たちは私たちについて来る必要はありません」(ib. 4 変更)

☞ doare は 17 世紀には第 1 不定詞を伴っていたが，1800 年以後，te-第 2 不定詞と競合するようになり，Boelens/Van der Woude (1955) の方言調査では半数以上の話者が te-第 2 不定詞を用いるに至った。これをオランダ語の影響とする見方もあるが(De Rooy 1970)，オランダ語でも durven は te を伴うか否かに揺れがあり，西フリジア語内部の類推の可能性も否定できない (Tamminga 1984)。①から③までの判定は Hoekstra (1997：4) によるが，Tamminga (1984) の doare にかんする判定は流動的であり，話者による揺れを認めている。

② te-第 2 不定詞と第 1 不定詞をともに伴う場合

文末 (右枠) で不定詞の doare/hoege (hoeve) と不定詞が隣接する場合。

Dat sil se wol net {*dwaan doare*/*doare te dwaan*}.「それは彼女はたぶんあえてすることはないだろう」(Hoekstra 1997：4 変更)

Dat sil er wol net {*sizze hoege*/*hoege te sizzen*}.「それは彼はたぶん言う必要がないだろう」(ib. 4 変更)

Dat liket se wol net {*dwaan te doaren*/*te dwaan te doaren*/**te doaren*

*dwaan/*te doaren te dwaan*}.「それは彼女はたぶんあえてすることはないように思われる」(dwaan te doaren がふつう)

Dat liket er wol net {*sizze te hoegen/te sizzen te hoegen/*te hoegen sizzen/*te hoegen te sizzen*}.「それは彼はたぶん言う必要はないように思われる」(sizze te hoegen がふつう)

③ 第1不定詞だけを伴う場合

文末(右枠)で過去分詞の doare/hoege (hoeve) が不定詞に隣接する場合。

Dat hat se net {*dwaan doarst/*doarst te dwaan*}.「それは彼女はあえてすることはなかった」(Hoekstra 1997：4 変更)

Jimme hiene ús net {*folgje hoegd/*hoegd te folgjen*}.「君たちは私たちについて来る必要はなかったのに」(ib. 4 変更)

(b) doare [dóərə, dwárə] (doarre [dwárə])「あえて…する，…する勇気がある，…する責任を負う」

	現在形			過去形	
ik	doar	[doər, dwar]	ik	doarst	[doəst, dwast]
				doarde	[dóədə, dwádə]
(do)	doarst	[doəst, dwast]	(do)	doarst	[doəst, dwast]
				doardest	[dóədəst, dwádəst]
hy	doart	[doət, dwat]	hy	doarst	[doəst, dwast]
	doar	[doər, dwar]		doarde	[dóədə, dwádə]
hja	doare	[dóərə, dwárə]	hja	doarsten	[dóəstən, dwástən]
	doarre	[dwárə]		doarden	[dóədən, dwádən]

過去分詞 doarst [doəst, dwast], doaren [dóərən, dwárən], doard [doət, dwat]

① te-第2不定詞を伴う用例

Ik *doar* it net *te dwaan*.「私はそれをあえてする気はない」(Tamminga 1984：29)

De bern *doarsten* earst net *te boadskipjen*.「子供たちは最初，買い物をしようという気になれなかった」(ULI'S, B 14：16 変更)

② 第1不定詞を伴う用例

Ik *doar* it net *dwaan*.「私はそれをあえてする気はない」(Tamminga 1984：29)

Lid wurde kin elk, as er foar tûzen gûne *stean doar*.「千ギルダー出すのに抵抗がない人ならだれでも会員になれる」(ULI'S, B 16：11 変更)

Men moat *sprekke doare* as it tiid is.「しかるべき時が来たら，はっきりものを言う勇気が必要だ」(Bosma-Banning 1981²：143)

Nimmen hie it *weagje doard*.「だれもそれを敢行する勇気がなかった」(ULI'S, C 12：21 変更)

③ 不定詞を伴わない用例

"Do bist in flinke jonge", seit mem, "mar *doarst* wol allinne yn 'e bus?"「おまえは頭の良い子だ」と母親は言った「でも，ひとりでバスに乗る勇気はあるのかい」(ULI'S, B 18：11)

(c) hoege [húɣə] (hoeve [húvə])「(＋否定) …する必要がない」

	現在形			過去形	
ik	hoech	[hux]	ik	hoegde	[húɣdə]
	(hoef	[huf])		(hoefde	[húvdə])
(do)	hoechst	[huxst, hukst]	(do)	hoegdest	[húɣdəst]
	(hoefst	[hufst])		(hoefdest	[húvdəst])
hy	hoecht	[huxt]	hy	hoegde	[húɣdə]
	(hoeft	[huft])		(hoefde	[húvdə])
hja	hoege	[húɣə]	hja	hoegden	[húɣdən]
	(hoeve	[húvə])		(hoefden	[húvdən])

過去分詞 hoegd [huxt] (hoefd [huft]) (ただし，hoegen (Hoekstra 1997：4))

① te-第2不定詞を支配する用例

Dan *hoecht* men jin dêr *net* oer *te fernuverjen*.「それならそれは驚くにはあたらない」(ULI'S, C 11：3)

Jo *hoege net* perfoarst in saakkundige *oan te lûken* foar it meitsjen fan jo plannen.「あなたは計画の立案のために専門家の知恵を借りる必要はまったくありません」(ULI'S, C 14：16)

"Ik kin it allinne wol fine", seit Klaas, "mem *hoecht* oer my *net yn te sitten*."「きっとひとりで探せるよ」とクラースは言った。「お母さんはぼくのことを心配しなくていいよ」(ULI'S, B 18：11)

② 第1不定詞を支配する用例

In goeie ferslachjouwer wit krekt, hokker punten oft er al neame moat en hokker oft er *net neame hoecht*.「良いレポーターはどの点を挙げるべきか，どの点は挙げなくてもいいかをよく心得ている」(ULI'S, C 20：5変更)

③ 不定詞を伴わない用例

自動詞としても用いることに注意。

Hy *hoegde* gjin jild.「彼には金をもたせないほうがいい」(Zantema 1984：409)

Trekhûnen binne der net mear, om't it *net mear hoecht*.「荷物引きの犬はもういなくなってしまった。もう必要ないからだ」(ULI'S, C 7：8)

Reizgje, dat *hoecht* fan my *net*.「旅行か，そいつはたくさんだ」(ULI'S, A 19：7)

'Moai wêze' *hoegde* net sa bot mear.「『美しくあること』はもうそれほど必要なくなった」(ULI'S, C 4：10)

☞ (1)(c)③ moatte（否定文）も同様の意味で用いる。

参考文献

(前回までに掲載したものを除く)

ANS 1984. *Algemene Nederlandse spraakkunst*. G. Geerts/W. Haeseryn/J.

de Rooij/M. C. van der Toorn (útj.). Groningen/Leuven. Wolters-Noordhoff/Wolters.

Boelens, K./G. Van der Woude. 1955. *Dialectatlas van Friesland (Nederlandse en Friese dialecten). I. Teksten, II. Kaarten. Antwerpen. Reeks Nederlandse dialctatlassen 15.*

De Rooy, J. de 1970. "*Doare* (+*te*) infinitief". Yn: T. Hoekema/Y. Poortinga/J. J. Spahr van der Hoeck (útj.). 1970: 247-250.

Hoekema, T./Y. Poortinga/J. J. Spahr van der Hoeck (útj.). 1970. *Flecht op 'e koai. Stúdzjes oanbean oan Prof. Dr. W. J. Buma ta syn sechtichste jierdei*. Groningen. Wolters-Noordhoff.

Kirsner, R. S. 1969. "The role of *zullen* in the grammar of Modern Standard Dutch". *Lingua* 24. 101-145.

Paul/Wiel/Grosse. 1989[23]. *Mittelhochdeutsche Grammatik*. Tübingen. Niemeyer.

Tamminga, D. A. 1984. "Doarsto dat wol (te) dwaan?". *De Pompeblêden* 58. 29.

Tamminga, D. A. 1987. "Lit it net by sillen bliuwe". *De Pompeblêden* 58. 180.

*本稿は筆者の以下の論文に続く西フリジア語の文法構造の記述である。

「西フリジア語の音韻と正書法 (1)」(北海道大学文学部紀要 44-1. 第 85 号. 1995. 37-81)

「西フリジア語の音韻と正書法 (2)」(北海道大学文学部紀要 44-2. 第 86 号. 1995. 43-111)

「西フリジア語の文法構造－冠詞，名詞，形容詞－」(北海道大学文学部紀要 45-1. 第 88 号. 1996. 21-81)

「西フリジア語の文法構造－代名詞－」(北海道大学文学部紀要 45-2. 第 89 号. 1997. 79-176)

「西フリジア語の文法構造－数詞，副詞，der－」(北海道大学文学部紀要 45-3. 第 90 号. 1997. 171-246)

「西フリジア語の文法構造－前置詞と後置詞 (1)－」(北海道大学文学部紀要 46-1. 第 91 号. 1997. 23-62)

「西フリジア語の文法構造－前置詞と後置詞 (2)－」(北海道大学文学部紀要 46-2. 第 92 号. 1997. 41-64)

「西フリジア語の文法構造－接続詞－」(北海道大学文学部紀要 46-3. 第 93 号. 1998. 65-121)

「西フリジア語の文法構造－動詞 (1)－」(北海道大学文学部紀要 47-2. 第 95 号. 1998. 21-97)

「西フリジア語の文法構造—動詞 (2)—」(北海道大学文学部紀要 47-3. 第 96 号. 1998. 53-72)
記述上の問題点については筆者の次の論文を参照。
「西フリジア語文法記述の問題点」(北海道大学文学部紀要 44-3. 第 87 号. 1996. 41-107)

*本稿は平成 10 年度文部省科学研究費補助金による研究成果の一部である。
研究課題:「ドイツ語・オランダ語・フリジア語の対照文法記述—西ゲルマン語類型論に向けて」. 基盤研究(C)(2). 課題番号 10610491(研究代表者　北海道大学文学部助教授　清水　誠)